

# 重度の開口障害を伴った慢性硬化性下顎骨骨髓炎の1例

平瀬 正康, 高橋 宏昌, 大谷 泰志,  
高岡 昌男, 喜多 涼介, 梅本 丈二,  
瀬戸 美夏, 喜久田利弘

福岡大学医学部歯科口腔外科学講座

要旨：重度開口障害を伴う慢性硬化性骨髓炎の1例を報告する。28歳の男性は重度開口障害による摂食困難を主訴に、当院を受診した。血液検査で炎症反応を認めた。我々は下顎骨骨髓炎を疑った。しかし、抗菌薬療法は奏功しなかった。腫瘍、破傷風、顎関節症など、その他の疾患も種々の検査で否定された。我々は静脈内鎮静法下での強制開口を行った。22mm 開口可能であった。全身麻酔下での下顎骨から右内側翼突筋と咬筋の剥離、下顎骨搔把術と下顎骨外側皮質骨除去術を行った。術後の経過は良好であった。臨床経過と病理学的所見で慢性硬化性骨髓炎と診断した。術後の再発はなく、経過良好である。

キーワード：慢性硬化性骨髓炎, 下顎骨, 内側翼突筋, 開口障害